

東日本大震災では、 実際にトイレが 使えなくなりました

今から約12年前の2011年3月11日、東日本の地域でとても大きな地震が発生し、たくさんの方が被害にあいました。この東日本大震災によって停電や断水が発生し、水が流れなくなったことでトイレが使えなくなってしまいました。



東日本大震災発生後の様子

もしもトイレが 使えなくなったら

普段当たり前に使っているトイレ。しかし、大きな地震などの災害が発生すると、トイレが使えなくなることがあります。もしトイレが使えなくなったらどうすればよいか家族で考えてみましょう。

トイレが使えなくなったらどうするの？

トイレが使えなくなったときの対処方法は、大きく分けて2つあります。

1つ目

災害用トイレを作る

災害が発生しても自宅が安全であれば、住み慣れた家で生活ができます。そんなときのために、ホームセンターなどで買える携帯トイレを用意しておきましょう。

携帯トイレの使い方



1 ポリ袋を便座の下にはさむ



2 便座の上から用を足すための排便袋をつける



3 おしっこやうんちを固めるための「凝固剤」を入れる(商品によって、入れるタイミングは異なります)



4 用を足したら、排便袋を取り出し、小さく縛る

凝固剤の代わりに細かくちぎった新聞紙やペットシート、おむつを使うことができます。

2つ目

避難所に行く

小学校や公民館・ふれあいセンターなどの公共施設は災害が起こると、家で生活ができない人の避難所となるため、災害用トイレが準備されています。



簡易組立トイレ



マンホールトイレ



車椅子対応マンホールトイレ

※一部の指定福祉避難所に準備されています

みんなが安心して使えるように

トイレが汚いと、なるべくトイレに行かないように、水分や食事を控え、栄養不足になったり、病気になったりする危険があります。避難生活では、一人一人がトイレをきれいに使うことを心がけましょう。